

令和8年度 病害虫発生予察注意報 第3号

令和8年10月5日

千葉県農林総合研究センター長

トマト灰色かび病の多発生に注意

1 注意報の内容

(1) 対象作物及び病害虫名：トマト、灰色かび病

(2) 発生地域：県内全域

(3) 発生量：多

2 注意報発令の根拠

(1) 9月下旬に行った夏秋トマト10地点の巡回調査において、灰色かび病の平均発病株率は、33.60%（平年1.41%）（図1）、発生圃場率は90.0%（平年9.3%）（図2）と、いずれも過去10年と比較して最も高かった。

(2) 10月1日に気象庁から発表された、関東甲信地方1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並みか少ない見込みであるが、8～9月は平年の約4倍の降水量を記録していることから、しばらくは相対湿度が高い状態が続くことが予想され、灰色かび病菌の感染拡大が懸念される。

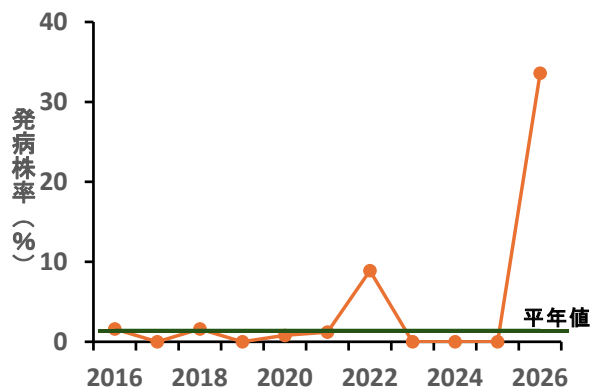


図1 発病株率の年次推移
(9月下旬調査)

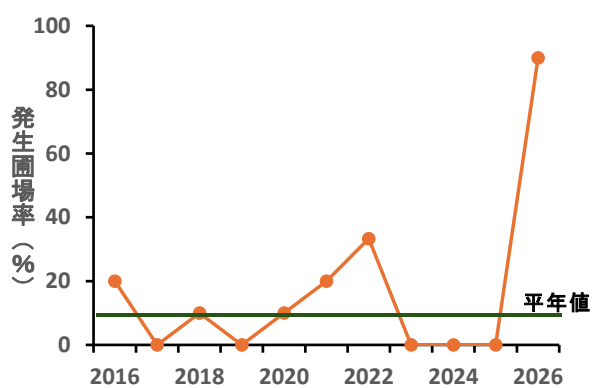


図2 発生圃場率の年次推移
(9月下旬調査)



写真1 葉先の病斑



写真2 摘葉後の傷口の病斑



写真3 果実の病斑（水浸状の腐敗）

3 防除対策

（1）耕種的・物理的防除

- 1) 多湿条件下で発生しやすいことから、換気、送風、暖房等により、施設内の湿度を低く保つ。
- 2) 過繁茂にならないよう、適切な施肥管理を行い、風通しを良くするために適宜摘葉を行う。
- 3) 傷口が早く乾くよう、気象予報等を参考に管理作業は晴天が続く時に行う。摘葉や摘芽は基部で切断する。
- 4) 発病していなくても、しぼんだ花卉や枯死した部位は発生源となるため摘除する。
- 5) 病斑部（写真1～3）は早めに摘除し、ほ場外に持ち出して適切に処分する。

（2）薬剤防除

- 1) ほ場の見回りなどによる発病株の早期発見に努め、[令和8年版農作物病害虫雑草防除指針（トマト・ミニトマトー3、ー4）](#)を参考に、発生初期に薬剤散布を実施する。
- 2) 葉裏や下位葉にも十分かかるよう、丁寧に薬剤散布する。
- 3) 薬剤散布は、晴れた日の午前中に行う。また、曇雨天が続いて薬液が乾きにくい場合には、くん煙剤の使用や常温煙霧等も有効である。
- 4) 耐性菌を生じやすいので、F R A Cコード（殺菌剤の作用機構の分類）が異なる薬剤をローテーションで選択する。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafro-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

